～もっと地域と　もっと地域へ～

かがやくえがお

第29号

令和８年１１月　６日
長崎市立小島小学校
校　長　　桐山　充晴

【学校教育目標】夢をもち、ふるさとを愛し、自ら未来を切り拓く児童の育成

子供は大人の背中を見て育つ

～学校と家庭が手を取り合い、共に示す大人の姿～



秋が深まり、木々の葉が色付く実りの季節を迎えました。春に小さな芽を出した草木が、自然の恵みを受け、時に雨風に耐えながら豊かな実を結ぶ姿は、日々たくましく成長する子供たちの歩みと深く重なります。

【言葉以上に雄弁な「大人の背中」】

さて、古くから「親の背中を見て子は育つ」と言われますが、子供は親や周囲の大人の姿をじっと見つめ、そこから多くのことを自ずと学び取りながら育っていきます。子供のしぐさや話し方が親に似てくるのも、日々の生活の中で親の立ち振る舞いを自然に感じ取り、身に付けているからです。

例えば、連絡帳での「いつもお世話になっております」という挨拶の言葉遣いや、玄関で靴を脱ぐ際に向きをきちんと揃えて端に寄せる習慣など、大人から言葉で「こうしなさい」と教え込まれなくても、大人が当たり前に実践している日常の姿を見ることで、子供たちはその行動を自分自身のものとして学んでいきます。

子供たちの健全な育成やしつけにおいて、言葉で理屈を教えたり、時には厳しく伝えたりすることももちろん大切です。しかし、言葉の力以上に影響力があるのは、子供たちが毎日目にしている「大人の実際の行動」です。

今日、画像や動画をはじめとする視覚情報が子供たちの周りに溢れています。そうした情報の中には、必ずしも子供たちの健全な成長にとって望ましいものばかりが含まれているわけではありません。だからこそ、子供たちにとって最も身近な存在である親や教師が、人として正しい姿勢や道徳的な行動を日々の生活の中でしっかりと見せていくことが求められています。

そこで、家庭と学校、地域が一体となって連携を深めていかなくてはいけません。まず大前提として、「子供たちはいつも大人の姿を見ている」――このことを私たち大人は常に肝に銘じる必要があります。

1. **学校における取組**：学校では、全教職員が子供たちの手本となるような行動や接し方を心がけ、学校生活全体を通じて子供たちが正しく学び成長できるよう、一貫した「背中」を示していきます。
2. **家庭での実践と共有**：家庭においても、特別な教え込みではなく、日常の挨拶や感謝の言葉、身の回りのマナーなど、大人が日々の暮らしの中で自然に見せる望ましい姿が、子供たちの豊かな心を育む土台となります。
3. **「同じ背中」を見せる学校と家庭・地域の連携**：学校、家庭、そして地域社会が別々の姿勢を見せるのではなく、同じ思いで「人として正しい姿」を子供たちに示していくことが何より重要です。場所が変わっても身近な大人たちが共通した一貫性のある姿を見せることで、子供たちは迷うことなく、安心して健やかに成長していくことができます。

親も教師も人間ですから全てが完璧ではなく、苦手なこともありますし、できないことも、したくないこともあります。子育ては完璧で完全な大人の姿を見せることが正しいわけではありません。しかし大人自身ができないことを知らぬ間に子供に押しつけてしまって強制してやらそうとしている場合もよくあります。ですから、なるべく、やる気のない、義務感だけの態度を見せることをやめて、大変で辛いけれど、とにかくあきらめず必死でがんばっている一生懸命の姿を見せていくこと、そして何より全力で愛していることが大切である気がします。大人だって失敗したり、悩んだりします。その、ありのままの姿を投げやりな形ではなく堂々と見せることが本当の「親の背中を見せる」ということになる気がします。子育ては親や教師が子供と一緒に成長していく過程なのだと私は常に思っています。

学校と家庭が日頃から思いを共有し、密に連携を図りながら、子供たちの成長を共に支えていくことができればと考えています。今後とも本校の教育活動への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。